

＝売上高利益率×総資本回転率

売上高利益率は、売上高単位当たりどれだけの利益が得られたかを表わし、**総資本回転率**は、総資本が一定期間にどれだけの収入をあげたか、すなわち総資本の利用度を表わすものである。

売上高利益率または総資本回転率が低い(または高い)ときには、さらにこれら両系列の係数についてその原因を分析しなくてはならない。売上高利益率と総資本回転率の両系列の主要係数について述べるとつぎのとおりである。

1 売上高利益率の系列の主要係数

売上高利益率はずきの算式の示すように、(1-営業係数)であって、この営業係数は売上高単位当りいくらの原価を要したかを意味し、営業成績を示す尺度として用いられている。

$$\begin{aligned} \text{売上高利益率} &= \frac{\text{営業純損益}}{\text{営業収入}} = \frac{\text{営業収入} - \text{原価}}{\text{営業収入}} \\ &= \left(1 - \frac{\text{原 価}}{\text{営業収入}}\right) = 1 - \text{営業係数} \end{aligned}$$

この営業係数は、

$$\begin{aligned} \text{営業係数} &= \frac{\text{原 価}}{\text{営業収入}} = \frac{\text{原 価}}{\text{人トンキロ}} \div \frac{\text{営業収入}}{\text{人トンキロ}} \\ &= \text{販売高原価係数} \div \text{収入係数} \end{aligned}$$

であって、販売高原価係数と収入係数とに分析される。

販売高原価係数は販売高(輸送量、すなわち人トンキロ)単位当り原価であり、つぎの算式の示すように、原価係数と輸送効率とに分析され、また収入係数は販売高単位当り収入であり、つぎの算式の示すように、生産高収入係数と輸送効率とに分析される。

$$\begin{aligned} \text{販売高原価係数} &= \frac{\text{原 価}}{\text{人トンキロ}} = \frac{\text{原 価}}{\text{換算客貨車キロ}} \\ &\div \frac{\text{人トンキロ}}{\text{換算客貨車キロ}} = \text{原価係数} \div \text{輸送効率} \\ \text{収入係数} &= \frac{\text{収 入}}{\text{人トンキロ}} = \frac{\text{収 入}}{\text{換算客貨車キロ}} \\ &\div \frac{\text{人トンキロ}}{\text{換算客貨車キロ}} = \text{生産高収入係数} \div \text{輸送効率} \end{aligned}$$

原価係数は生産高(輸送力すなわち換算客貨車キロ)単位当り原価であり、生産高収入係数は生産高単位当りの収入であり、また輸送効率は生産高単位当り販売高である。

ところで収入係数および原価係数が、それぞれ販売高単位当りの収入として、あるいは生産高単位当り原価として、販売あるいは生産計画の樹立、販売予算の編成上から重要な係数であることはいうまでもないが、生産即販売であるべき運輸という商品の性格から、生産高単位当り販売高である輸送効率はもとより、生産高単位当り収入である生産高収入係数、また販売高単位当り原価である販売高原価係数は、生産効果の測定上重要な係数である。

(1) 収入係数より細分される主要な係数はつぎのとおりである。

ア 旅客収入係数 人キロで旅客収入(旅客運賃収入その他)を除いたもので、旅客販売高単位である1人1キロ当り旅客収入を示す係数である。

イ 旅客運賃率 人キロで旅客運賃収入を除いたもので、旅客販売高単位である1人1キロ当り旅客運賃収入を示す係数である。これはさらに定期外旅客運賃率、定期旅客運賃率に細分される。

ウ 貨物収入係数 トンキロで貨物収入(貨物運賃収入その他)を除いたもので、貨物販売高単位である1トン1キロ当り貨物収入を示す係数である。

エ 貨物運賃率 トンキロで貨物運賃収入を除いたもので、貨物販売高単位である1トン1キロ当り貨物運賃収入を示す係数である。これはさらに小口貨物運賃率、車扱貨物運賃率に細分される。

オ 営業1キロ1日当り収入 延日営業キロで営業収入を除いたもので、当該期間に実際に営業に従事した営業区間1キロ1日当りどれだけの収入をあげたかを示す係数である。これはさらに**営業1キロ1日当り旅客収入**、**営業1キロ1日当り貨物収入**に細分される。

カ 職員1人当り収入 職員数で営業収入を除いたもので、職員1人当りの売上高を示す係数である。

以上のうち旅客運賃率および貨物運賃率は、国鉄の主要な商品の収入率であって、重要なものである。この旅客運賃率および貨物運賃率は、つぎの算式の示すようにそれぞれ1人当り旅客運賃と1人当り乗車キロ、1トン当り貨物運賃と1トン当り輸送キロの関係から成っているため、これらによってそれぞれの良否の原因を分析することができる。

$$\begin{aligned} \text{旅客運賃率} &= \frac{\text{旅客運賃}}{\text{人キロ}} = \frac{\text{旅客運賃}}{\text{輸送人員}} \div \frac{\text{人キロ}}{\text{輸送人員}} \\ &= 1 \text{人当り旅客運賃} \div 1 \text{人当り乗車キロ} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{貨物運賃率} &= \frac{\text{貨物運賃}}{\text{トンキロ}} = \frac{\text{貨物運賃}}{\text{輸送トン数}} \div \frac{\text{トンキロ}}{\text{輸送トン数}} \\ &= 1 \text{トン当り貨物運賃} \div 1 \text{トン当り輸送キロ} \end{aligned}$$

(2) 生産高収入係数より細分される主要な係数は、つぎのとおりである。

ア 旅客生産高収入係数 換算客車キロで旅客収入を除いたもので、旅客生産高単位(換算客車キロ1キロ)当り旅客収入を示す係数である。

イ 旅客列車生産高収入係数 旅客列車キロで旅客収入を除いたもので、旅客列車キロを旅客生産高とした場合の旅客生産高単位(旅客列車キロ1キロ)当り旅客収入を示す係数である。

ウ 客車生産高収入係数 客車キロで旅客収入を除いたもので、客車キロを旅客生産高とした場合の旅客生産高単位(客車キロ1キロ)当り旅客収入を示す係数である。

エ 貨物生産高収入係数 換算貨車キロで貨物収入を除いたもので、貨物生産高単位(換算貨車キロ1キロ)当り貨物収入を示す係数である。

オ 貨物列車生産高収入係数 貨物列車キロで貨物収入を除いたもので、貨物列車キロを貨物生産高とした場合の貨物生産高単位(貨物列車キロ1キロ)当り貨物収入を示す係数である。

カ 貨車生産高収入係数 貨車キロで貨物収入を除いたもので、貨車キロを貨物生産高とした場合の貨物生産高単位(貨車キロ1キロ)当り貨物収入を示す係数である。

(3) 原価係数より細分される主要な係数はつぎのとおりである。

ア 旅客原価係数 換算客車キロで旅客原価を除いたもので、旅客生産高単位(換算客車キロ1キロ)当り旅客原価を示す係数である。

イ 貨物原価係数 換算貨車キロで貨物原価を除いたもので、貨物生産高単位(換算貨車キロ1キロ)当り貨物原価を示す係数である。

ウ 換算客貨車キロ当り保守作業費 換算客貨車キロで保守作業費を除いたもので、生産高単位(換算客貨車キロ1キロ)当り保守作業費を示す係数である。

エ 換算客貨車キロ当り運輸作業費 換算客貨車キロで運輸作業費を除いたもので、生産高単位(換算客貨車キロ1キロ)当